鮫小

関わり合いながら、ともに成長する子どもの育成

～特別支援教育の充実と改善を通して～

（２年計画の２年次）

校長　　鈴　木　規　夫

１　研究主題について

本校は、「明るく思いやりのある子」「めあてをもって学ぶ子」「健康でたくましい子」を教育目標に掲げ、徳・知・体の調和のとれた人間性豊かな児童の育成のため、「心の教育」を基盤とし、個を生かしながら「生きる力」の育成を推進してきた。

昨年度は、「かかわり合いながら、学びを深める子どもの育成」という研究主題で、国語科における授業構成の工夫や思考を伴う言語活動の充実について取り組んだ。児童が見通しをもって問題解決に取り組んだり、伝え合う場面での言語活動の充実が見られたりという成果が見られた。しかし、児童の中には、学びに参加できずに学習意欲をもてないまま過ごしている子どもや、個別の支援や配慮が必要な子どもが多くいるのが現状である。

そこで、今年度は、誰にでも分かりやすい授業づくりを実践していくために、教科を絞らずに、特別支援教育の視点を生かした授業のあり方について研究を深めていくこととした。また、個別の支援を必要とする児童の実態が多様であるため、全体でのケース会議を行い、事例研究をすることで、児童一人一人の特性に応じた支援について理解し、日常の実践に役立てていきたいと考える。個別の指導計画については、作成するだけではなく、それを生かした実践や改善などが行えるように、進め方について話し合い、共通理解していく。このような研究を通して、関わり合いながら、ともに成長する子どもを育成していきたい。

２　研究のねらい

関わり合いながら、ともに成長する子どもの育成を目指して、特別支援教育の視点を生かした授業のあり方や通常学級における特別な支援を必要とする児童への配慮と工夫について、実践を通して明らかにする。

３　研究仮説

誰にでも分かりやすい授業づくりや、通常学級における特別な支援を必要とする児童についての事例研究及び個別の指導計画作成の進め方について考え実践することで、関わり合いながら、ともに成長する子どもを育成することができると考える。

４　研究内容

(1) 特別支援教育の視点を生かした授業のあり方

　ア　誰にでも分かりやすい授業について

(2) 通常学級における特別な支援を必要とする児童への配慮と工夫

　ア　事例研究（情報の共有を含む）

　イ　個別の指導計画作成の進め方

５　研究の経過

(1) 研究仮説に基づく授業研究

月	日	研究内容等
９	２０	第１回授業研究（上学年ブロック） 算数「立体の体積」　　６年２組　授業者　佐井　渓生 講師　八戸市こども支援センター 上澤　司　特別支援教育アドバイザー
１１	２２	第２回授業研究（下学年ブロック） 算数「三角形と四角形」　　２年１組　授業者　小杉　宙裕 講師　八戸市こども支援センター 上澤　司　特別支援教育アドバイザー

(2) 一般研修

月	日	内容・講師等
４	１９	健康上・指導上留意を必要とする児童についての研修 ・エピペンの使い方 ・児童との関わり方、配慮することなどについての共通理解
６	７	ケース会議　「支援を必要とする児童についての研修」
６	２８	ストレス解消法・リラクゼーションについての研修 講師：　塚尾　沙貴　理学療法士
７	５	救命救急法　「ＡＥＤ、肋骨圧迫法、人工呼吸法」 講師：八戸東消防署　鮫分署の方々（２名）
９	６	情緒的に安定しない児童についての研修 講師：八戸市こども支援センター　川野輪　美穂　指導主事

６　研究の成果

(1)誰にでも分かりやすい授業づくりについて研修し、日常の実践に生かすことで、課題解決に向かう児童の意欲につなげることができた。

(2)個に応じた手立てと全体への手立てを考えて授業を行うことで、関わり合いながら学ぼうとする児童の態度を育てることができた。

(3)通常学級における特別な支援を必要とする児童についてのケース会議を全体で行うことで、児童の特性に応じた支援方法について学び、実践することができた。

７　研究の課題

(1)児童が関わり合いながら共に成長するために、上位の児童が自力で課題解決できるような授業づくりも考えていく必要がある。

(2)学んだことを忘れずに学習に生かすことができるように、基礎・基本の定着を図る必要がある。

（記入者　小山　ゆかり）